

研究ノート

ホテル産業の競争優位の源泉としての「グローバル・ツーリズム教育」 —香港理工大学 SHTM の事例分析を中心に—

“Global Tourism Education” as a Competitive Advantage of Hotel Industry: An Analysis of Global Education at the Hong Kong Polytechnic University SHTM

張 雪 松

(兵庫県立大学大学院)

要旨

グローバル化の進展の中で、欧米に先手を取られたアジアのホテル産業にとっては、国際競争優位を獲得して生き残り、さらに持続的な発展を実現するために、競争優位の源泉としての人材の重要性がますます注目されるようになってきた。しかし、これらの人材の育成にもっとも重要な役割を果たしている高等教育機関には、教育方法について、いまだ明確で統一された認識がないように思える。

そこで本稿は、ホテル産業の国際競争優位をもたらすためには、今まで多く議論されてきた企業戦略・管理の面において優位性を形成するだけでなく、「グローバル・ツーリズム教育」としてのグローバル産業のための人材教育が必要であることを主張する。さらに、香港理工大学 SHTM のグローバル教育を事例として考察した。その結果、「グローバル・ツーリズム教育」が単にカリキュラムのグローバル・スタンダード化を意味するのではなく、既存の教育制度や産業の発展または地域の特性に適合する動的なシステムでなければならないことを示した。

Abstract

This paper is written on the background of the rapid development of global tourism.

In order to improve human resources of tourism industry, higher tourism education has to change to meet “global age”.

The purpose of this paper is to explain the method of "global system", in particular, for universities in Asian. At the same time, this paper discusses the approaches for "global" tourism education, especially in the School of Hotel and Tourism management (SHTM) of Hong Kong Polytechnic University.

Consequently, this paper concludes that “global” education in Asian should not imitate North American style education system, rather it should appropriate for a region characteristic, and industrial demand in the global network.

キーワード

グローバリゼーション, グローバル教育, 観光

Keywords

globalization, global education, tourism

1. はじめに

グローバリゼーションが、社会、経済、政治、環境などのあらゆる領域において進行している。グローバリゼーションの進展に伴って、世界のネットワークはより緊密になり、技術や産業構造がグローバルに変化している。ツーリズムもその例外ではなく、ツーリズムは従来のドメスティックな性質を変え、もはや「ツーリズム産業はグローバル産業である」(Go,1998 : 453) とさえ言われるようになった。複合産業であるツーリズム産業の重要なセクターとしてのホテル産業または企業は、こうした環境変化のもとで、国やコミュニティの境界を越えたグローバルな規模でのオペレーションを図っており、厳しいグローバル競争に巻き込まれている。

グローバル競争のなかで、国際競争優位を獲得して生き残り、さらに持続的な発展を実現するためにどのようにすべきか。これは企業レベルのみならず、ツーリズムによる産業振興を目的として、国・地域の産業レベルでも考えられるようになってきている。世界のホテル市場は欧米系のホテルに大きく占められており、アジアのホテル産業は国際競争では劣位にあるが、世界観光市場におけるアジア太平洋地域の重要性は高まっており、アジアのホテル産業は競争も更に激化するが、同時に大きな機会が与えられることにもなるだろう。このような中で、欧米に先手を取られたアジアのホテル産業にとっては、競争優位を獲得するためにはその源泉を明らかにする必要がある。

アジアのホテル産業が直面しているもっとも深刻な問題は人材 (Human Resource) の

不足であると学界と業界の両方から指摘されるようになってきている。このような背景のもとで、ホテルまたはツーリズム産業のための人材育成を目的としたツーリズム教育が、90年からアジアの高等教育機関においても盛んになってきた。しかし、これらの高等教育機関には、アジアのホテルまたはツーリズム産業を、グローバル競争のなかで有利な位置に導くことができる教育方法について、いまだ明確で統一された認識がないように思える。そこで本稿では、Go (1998) の「グローバル産業のためのグローバル教育」という概念に基づきながら、ホテル産業の国際競争優位の源泉としてのツーリズム教育の方法を考察したい。そして、アジアの高等観光教育のトップに位置している香港理工大学 SHTM のツーリズム教育を事例として取り上げ、「グローバル・ツーリズム教育」の実態に迫り、これから「グローバル・ツーリズム教育」の展望を開く。

2. ホテル産業の競争優位とツーリズム教育

グローバリゼーションと産業構造のグローバルな転換の中で、ツーリズム関連サービスは利便性のみを提供する従来のサービスではなくなり、知識ベースのサービスに変化している。ツーリズム産業も労働集約型産業でなくなり、知識集約型産業となりつつある (Go,1998)。それによって人材育成の重要性がよりいっそう高まっている。

ホテル企業においても、グローバリゼーションの進展の中で、国際競争力を獲得するために戦略またはマネジメントの面でさまざまな工夫が必要となっている。規制緩和、情報技術の隆盛と普及、コスト削減の困難、施設などのハード商品の模倣可能性などにより、企業の技術的あるいは財務的な強みは失われつつある。結果として、今日の国際ホテル企業の生き残りは、顧客に高品質のサービスを提供するために、優れた能力を有し、徹底的に訓練されたスタッフを育成することにかかっている (Go,1995)。ツーリズム産業の知識集約産業化とあいまって、ますます人的資源が企業の競争優位の源泉となりつつある。ホテル産業はこれまで職場を中心にした最低限の技能訓練しか行ってこなかったが、今後はそれを超えたプロフェッショナルな人材の育成が国際競争力の獲得や持続的な発展にとって鍵となるだろう。そうした人材はグローバルな視野、科学的かつ専門的な知識・スキル、ゼネラルマネジメント能力を有するものでなければならない。

しかし、従来の職場訓練や職業教育だけでは、ホテル産業がこのような人材を育成することは困難である。したがって、学校教育課程で実施されるツーリズム教育が、このような人材を育成する主な手段となる。こうした「ツーリズム教育は、ツーリズムの持続可能な

発展を支えるための教育であり、すべてのツーリズム関係者のそれぞれの立場に応じたツーリズムの本質に関わる知識や技能の教育である。その目的はツーリズムの現実や本質的特徴に関する理論的知識と、ツーリズムの開発や運営に関する実践的知識・技能を教育することにある」(香川,2007)。特に、マネージャーの育成やキャリアパス、観光学専門家の養成などを目的とした高等ツーリズム教育(大学や大学院で行われる高度なレベルのツーリズム教育)はこうした人材の供給に大きく貢献している。

3. グローバル・ツーリズム教育について

ツーリズム教育、特に高等ツーリズム教育は、ホテルまたはツーリズム産業の国際競争優位の獲得に必要な人材を育成するのに必要不可欠である。しかし、いかなるシステムのもとでのツーリズム教育であるのかによってその有効性は左右される。

Go(1998:451-452)によれば、グローバル産業であるツーリズム産業のための人材育成は「グローバル教育」でなければならない。「グローバル教育」、とりわけマネジメントの観点から見た「グローバル教育」は、個人の知的発展—たとえば、リテラシー、外国語、コンピューター技術、異文化などとしての教育—と、一定水準のスキルを提供するための訓練という二つの領域が結合したものである。ツーリズムにおける「グローバル教育」は、グローバルな競争と、労働集約型から知識集約型産業へというグローバルな産業構造の転換によって「グローバル産業」となったツーリズムのためのものである。

そして、こうしたツーリズムにおけるグローバル教育システムはどのようなものであるべきなのか。グローバリゼーションはすべてを画一化するものではなく、それによって逆に文化などの多様性もより強調されるようになっている。したがって、ツーリズム教育は、すべてが標準化されるよりも、既存の教育制度やシステム、地域の特性に配慮した個性のある教育であることが望ましい。Go(1998:465,473)によれば、グローバル教育における標準化と個性化(individualization)の常に矛盾した過程が、教育機関が自らの位置づけを明らかにし、グローバル教育システムにおいて指導的役割を果たす機会を与えるのであって、教育とトレーニングにおけるクオリティを確保するためのカリキュラムの標準化と国や地域文化の個性化を守ることが同時に目指されなければならない。

以上のような考えに基づきながら、ツーリズムにおけるグローバル教育をより具体化するために、Goは次のような10のグローバリゼーション・コンセプト(10 Is)を提示している。

- ①相互依存性 (Interdependence) : すなわち、ツーリズム分野における各セクター間の相互依存性を理解し、幅広い視点で思考する能力を高めるプログラムの設計。
- ②統合 (Integration) : 観光学はビジネスにかかわるだけでなく、さまざまな専門分野に跨る学問である。したがって、ツーリズム教育は旅行、レジャー、レクリエーション、ホテル、ケータリングなどのさまざまなコースを統合しなければならない。
- ③緊密なパートナーシップ(Intimate partnership): グローバル企業と緊密なパートナーシップを持つことを通して、プロフェッショナルな人材育成のために必要となる実務経験が提供できるプログラムの設計。
- ④イノベーション(Innovation) : 革新的なアイデアや創造的な思考を引き起こすプログラムの設計。たとえば、新しい課題の研究を促進する新たなプログラムやコースの開設、ツーリズム関連企業の助言の受け入れることなど。
- ⑤情報技術(Information technology): 情報技術はツーリズム関連企業の競争優位を左右している。そのようなデジタル社会で、学生のキャリア学習を考慮したプログラムの設計。
- ⑥浸透(Immersion) : 文化的感受性や問題解決能力、労働力の世界市場に対する理解、諸国の人々と構築される関係を改善する能力など、企業の要求に応えることができるプログラムの編成。
- ⑦関与(Involvement): これからのツーリズムは社会がどれほど次世代に対する教育やトレーニングをしたかによって決まる。したがって、グローバル教育は教育者が国レベルと講義レベルでツーリズム教育に関与し、促進するように設計すべきである。
- ⑧イデオロギー (Ideology) : グローバル企業は多文化市場で展開している。したがって、これからこのような企業で働く学生に対する教育は、自民族中心主義的なイデオロギーに基づくプログラムやコースではなく、多文化的なコミュニケーション科目が重要である。
- ⑨国境をこえた相互関係 (Interaction across borders) : ツーリズム発展またはマネジメントスキル、グローバル教育またはグローバル産業をよりよく理解し、幅広い知識を得るため、学生レベルにおいても、アカデミーレベルにおいても、教育機関レベルにおいてもフォーマルな国際交流プログラムが必要である。
- ⑩国際ネットワーク(International networking) : すなわち、グローバル・ツーリズム・リサーチ・ネットワークの設立。国際ネットワークを、研究者のデータ収集能力の向上、比較研究のベースづくり、コストの削減などに役立てる。

この 10Is から、ツーリズム教育はツーリズム産業の複合産業としての特質、観光学の学際的学問性を反映し、国際交流、イノベーション、情報技術・異文化の理解、産学官連携などを重視するものでなければならないことがわかる。したがって、ツーリズムにおける「グローバル教育」(グローバル・ツーリズム教育)は、教育実践的な観点から、以上のような性格をもつ、グローバル産業であるツーリズム産業のための体系的な教育システムであると位置づけなおすことができる。

「グローバル・ツーリズム教育」は、ホテル産業においても競争優位の源泉となる。ホテル産業は、複合産業であるツーリズム産業の一つの重要なセクターであり、他のセクター、例えば旅行業、航空業、交通運送業、レジャーなどから独立して成長することはできない。すなわち、ホテル産業はこうした相互に依存する諸セクターの中に位置している。したがって、ホテル産業のための人材教育は、ホテルのみに焦点を当ててそのオペレーションの技能や知識を伝授するのではなく、ホテルセクターを中心とした各セクター間の相互作用を幅広い視点から教育する必要がある。

また、ホテル企業、特にグローバル・ホテルチェーンは国境を越えた展開を図っている。アメリカ系ホテルに見られるようなグローバル・スタンダード化したオペレーションやマネジメントの運営方法もあるが、国内外の競争に勝ち抜くためには、やはり現地のニーズに適応し、あるいはそれを創造するような地域の特徴を活かした戦略の策定・マネジメントの実行が必要となる。また、国際ホテル企業の経営の現地化も進んでおり、そのため異文化、現地の習慣・伝統に精通し、コミュニケーション能力のある人材の需要が増大しつつある。さらに、国際ツーリズムの急速な成長に伴って、国内のみで展開しているホテルにとっても、より多様な文化を有する宿泊客の割合が年々増加している。そのため、質的サービス・商品を提供するためには、従業員には外国語能力のみならず、国際ツーリズム客の異文化的文脈に対する理解も必要となる。したがって、国際交流や異文化理解、コミュニケーション能力の養成、さらには産業のニーズを知るための産学官連携を重視したカリキュラムを構築しなければならない。

さらに、技術の進歩や産業構造の再構築などによって、ホテル産業も従来の労働集約型産業ではなく、知識集約型産業となりつつある。技術変化はホテル企業の競争基盤や方法を変えている。たとえば、プロパティ・マネジメント・システムなどのオペレーションに必要な企業内のシステム、クレジットカード・システムや中央予約システムとつながるためのシステム、「データベース・マーケティング」、GDS やインターネットによって高度な

連結されたネットワークが登場している (Moore,2002)。これらの情報技術の応用能力はホテル産業の国際競争力を左右する。また、顧客満足度を高めることにより国際競争優位を獲得しようとする多くのホテル企業が、エンパワーメント（ある程度の意味決定の自由を従業員に与えること）を推進している。そのためには、個人の、それぞれの業務の遂行能力と意義に対する理解や認識を高めるだけでなく、意思決定をより自由に行うためにも、企業レベルでの理念・価値観を共有できる個人を育成し、その知識や能力を向上しなければならない。

ここまで、ホテル産業の国際競争優位の源泉としての「グローバル・ツーリズム教育」の必要性について述べてきた。しかし、現在のアジアのツーリズム教育は、実際にはどのようなもので、グローバル・ツーリズム教育という観点から見て、どのように評価できるのか。以下では、アジアの高等ツーリズム教育のトップに位置する香港理工大学 SHTM の事例を通してその実態を見る。さらに、「グローバル・ツーリズム教育」という観点から、その教育システムの問題点を明らかにする。

4. 香港理工大学 SHTM のツーリズム教育

4.1.SHTM(ホテル・アンド・ツーリズム・マネジメント・スクール)の概要

SHTM は香港理工大学のひとつの学部でありながら、高度な自治権を有するユニットである。

1979年に、SHTM は Department of Institutional Management and Catering Studies (IMCS)として、香港理工学院（当時）によって設立された。その設立の背景には、1970年代の、香港を訪問するツーリズム客の増加による、ツーリズム産業とりわけホテル産業の急速な成長、そして、それによる、よく訓練されたプロフェッショナルなスタッフの需要の増加があった。職業教育をベースにしたコースやプログラムが、香港の教育機関、特に後期中等教育機関で、修了書 (Certificate) のレベルで続々登場するようになった。

1986年に、ホスピタリティ産業の発展に伴って、その多様なセクターを反映するため、Department of Hospitality Management (HM) に改組した。1992年に、プログラムの内容や焦点をよりよく反映するため、学科名を Department of Hotel and Tourism Management (HTM) に改組した。さらに2001年に、ツーリズム産業のグローバル展開、特にアジア地域での急速な展開に伴って、School of Hotel and Tourism management (SHTM) に改組し格上げされた。

1992年に、SHTMはWorld Tourism Organization (WTO)の一員となり、世界に16箇所しかないWTO専門教育と訓練ネットワークセンターの一施設として指定された。また、2000年に、ツーリズム教育、訓練とリサーチ品質水準の高さから、アジアの高等教育機関としてはじめてWTOよりテッドクオル認定(TedQual Certification)¹が授与された。さらに、ツーリズム教育に関して権威ある学術誌—Journal of Hospitality and Tourism Researchのランキングによると、世界トップ15のリサーチおよび学術研究機関の一つとして評価されている。

4.2.SHTMの教育システム

アジア地域におけるすべての高等ツーリズム教育機関の中で、指導的位置にあるSHTMの教育システムはどのようなものであるのか、以下の視点から見てみよう。

(1) 講師陣

SHTMの講師陣は17カ国からの47人によって構成されている(2007年4月時点)。その内訳は教授が4人、助教授が18人、上級講師が1人、講師が11人、準講師や客員講師などが13人で、そのうち21人は博士号(PhD)を持つ。

また、教員を出身別に見てみると、ツーリズム関連産業出身者(43%)、あるいは海外名門大学(アメリカ、カナダ、中国本土、台湾、日本)のツーリズム専門家であった教員が最も多く、全体の四分之三を占めている。外国籍の教員を含め、ほとんどの教員は2カ国あるいは2地域またはそれ以上の国・地域で研究あるいは仕事をしたことがある。

さらに、専門分野を見ると、表1に表示したように、彼らは幅広い学問分野に跨るツーリズムの専門家である。とりわけ、ツーリズム・マーケティングおよびツーリズム関連産業にかかわる分野の教員が占める割合が非常に多く、全体の半数以上(66%)を占めている。

一般に同じようなツーリズム教育機関が他分野からの寄せ集めである場合が多いのに対

¹ WTO.TedQual Certification System (WTOテッドクオル認可システム)

WTOは、ツーリズム関係の教育訓練と調査の品質及び効率の向上に向けて、「WTOテッドクオル認可システム」、すなわちツーリズムの教育、訓練、調査に対する品質保証システムを開発した。このシステムの目的は、①ツーリズムの教育・訓練システムの品質基準を確立すること、②ツーリズム産業における教育をよりスムーズに進めること、の2点である。2005年2月の時点で、世界18カ国、31大学・機関、57プログラムが認定を受けている(国土交通省,2006)。

して、SHTM の講師陣は、真にツーリズムの専門家の集まりであるともいえる。そして、これらの専門家は国際的な視野をもち、国際的にもトップレベルの知識の持ち主ともいえる。

表1 分野別の教員数

専門分野	マーケティング	観光産業	観光経済	人的資源	情報技術	都市観光	国際観光	外国文化言語	観光客の消費行動	観光政策	レジャー	余暇
人数	16人	15人	6人	5人	5人	5人	3人	3人	3人	2人	2人	

出所：SHTM 公式サイトの教員リストから著者作成

注：①それぞれの分野は次のようなものである。マーケティング分野：ツーリズム・マーケティング、観光地マーケティング、サービスまたはクオリティ、カスタマー関連分野。観光産業分野：ホテル、旅行社、フード・料飲、航空業のマネジメントまたはオペレーション研究。情報技術分野：情報システム、e-ビジネス、ツーリズム情報など。観光経済分野：観光の経済的、社会的または文化的側面にかかわる研究。人的資源関連分野：リーダーシップ、人的資源マネジメント、雇用・労務研究。国際観光分野：特に中国観光に関する研究。都市観光分野：イベント・コンベンション・会議に関する研究、観光地イメージ研究など。

②教員一人に一つの学問分野とは限らないため、分野別の教員数は教員全体数と一致しない。

(2) 学生

SHTM は、学生の外国語の習得およびグローバルな視野の習得のため、オーストラリア、ヨーロッパ諸国、日本、韓国、中国本土、ニュージーランド、ペルー、アメリカなどの国々のツーリズム関連大学との間で交換留学生プログラムを実施している。また、中国本土と海外の受験生を対象に強力なアピールを行うことによって優秀な人材の獲得を目指している。そのほか、多様な形式で学生の国際交流の機会をできるだけ多く作り上げようとしている。

このように常に国際交流を念頭にしたツーリズム教育は、卒業生の進路先にも影響を及

ばしている。香港で就職した人はもちろん最も多いが、中国本土、アメリカなど海外のツーリズム関連企業に勤めている人も少なくない。そして、各大学卒業生のクオリティについての業界評価ランキングで、SHTMは上位に位置する。

(3) 国際学術イベント

SHTMは、ツーリズム教育・研究をめぐる国際的なゼミナーやフォーラムを積極的に主催している。表2は、2006年から2年間に渡って香港理工大学（polyu）またはSHTMによって主催された主な学術イベントを列挙したものである。このような国際的な学術イベントの主催によって、学内での国際的な研究の雰囲気形成を促すことができるのみならず、常に世界トップの研究視野と研究結果のもとでツーリズム教育を行うことができる。

表2 2006-2007年に香港理工大学またはSHTMによって主催された主な学術イベント

年	主な学術イベント
2006年5月	The 7 th Biennial Conference on Tourism in Asia, “Tourism ,Hospitality & Foodservice Industry in Asia: Development ,Marketing & Sustainability
9月	International Conference on Impact of Movies and Television on Tourism
10月	Third PolyU China Tourism Forum
11月	Third China Tourism Forum
2007年2月	Bio-Safety in Foodservice Seminar
4月	China Hotel and Tourism Development Seminar
5月	Uniform Systems of Accounts of Hotels seminar, China outbound Tourism workshop
7月	Certified Hospitality Educator workshop,China Hotel Branding Forum
10月	4 th China Tourism Forum “Community – Based Tourism”

出所：「Horizons SHTM Magazine」2006年と2007年より作成

(4) カリキュラムの革新

SHTMはツーリズム産業、人材市場の変化を洞察、分析し、これらのニーズをカリキュラム内容に反映させるため、カリキュラムの向上を常に意識し改編してきた。

1979年に、IMCSは3年制の組織管理プログラム（HD：Higher Diploma）と2年制

のケータリング運営プログラム (Diploma) – 香港におけるマネジメントレベルでの最初のホテルプログラム–を展開した。HD プログラムは、フードおよび宿泊産業における学生の職業能力の向上を目指した技術育成プログラムである。これには、宿泊運営、食品調理、フードと料飲サービス、実務会計学などのコースを中心に、48 週間のインターンシップも含まれている。

80 年代前半、ホテル産業の成長によって、訓練された従業員および管理者の需要が大幅に増えた。変化した人材市場のニーズを満たすために、SHTM は既存 HD プログラムのカリキュラム内容の再編に取り組んだ。ホテル・オペレーションにかかわる、より多くの要素がカリキュラムの中に反映されるようになった。また、学生のコミュニケーション能力を向上させるために、コミュニケーション・スキルと言語の学習を、カリキュラムの中に新たに組み込んだ。なお、英語はすでに SHTM の講義用共通言語となっている。

1980 年代後半から、職業的スキル教育を中心にしてきた HD プログラムは、ツーリズム現象のビジネスとしての性格を反映するために、一般的ビジネス原理や、マネジメント・スキル・トレーニングに焦点を合わせた、ホテル・マネジメント、ケータリング・マネジメント、ツーリズム・マネジメントという三つのコースを展開するようになった。

1988 年に、高等教育レベルでの人材を育成するため、香港における最初の学部レベルでのホスピタリティ・プログラム–ホスピタリティ・マネジメント (BA : Bachelor of Art) が開設された。この 4 年制のプログラムは、プロフェッショナルなコンセプト、基礎的ビジネス原理、意思決定論などの知識伝授に焦点を当てるものであった。

1991 年には、ツーリズム産業の急速な成長に伴って、SHTM は既存の BA プログラムを再設計し、ツーリズム・マネジメント (BA) を開設した。その後、4 年制のプログラムを 3 年に圧縮し、4 年目の一年間を通して関連企業での仕事体験を行う実践を重んじるカリキュラムを編成するようになった。

1993 年には、既存のホスピタリティマネジメント (BA) のコースが、ホテルとケータリングマネジメント (BA) に改編され、ホテル運営、フードサービス、ケータリング・オペレーションを中心にしたカリキュラムが展開されるようになった。

2000 年に、ホテル・マネジメント、ケータリング・マネジメント、ツーリズム・マネジメントという三つのコースを含む BA プログラムが導入された。HD プログラムと異なると、この新たな BA プログラムは、専攻するコースの諸科目を履修することはもちろん、ホスピタリティやツーリズムに関連するビジネス知識の学習も要求し、また、他コースの

諸科目の履修を可能にした。BA プログラムのこのような改編によって、学生がある特定の分野の知識のみならず、ビジネスとしてのツーリズム現象についての知識や、ツーリズム産業の多種多様なセクターに配慮した幅広い領域の知識を学習することができるようになった。

企業の人材需要に応じた人材教育だけでなく、ツーリズム産業の持続的な発展のために、広く観光学の分野に精通した研究者を育成することも高等教育機関の目的である。したがって、1991年、香港理工大学のもとで SHTM はツーリズム関連研究者育成を目的に、調査研究をベースにした大学院レベルでのプログラム（PhD : Doctor of Philosophy と Mphil : Master of Philosophy）が展開され始めた。また、ホスピタリティおよびツーリズム関連企業で管理者として働いている社会人の理論知識を向上させたいというニーズに応えるため、1994年、SHTM は社会人向けのプログラム（MS c : Master of Science と PgD : Postgraduate Diploma）を定時制の形で開設した。ここでのカリキュラムはホテルやツーリズム関連セクターにおけるビジネス実務教育を中心にしたものであった。その後、中国本土からの学生を吸引するために、SHTM は既存の社会人プログラムを改編した上で、一年制の全日制 MS c と PgD を導入した。

2005年、ホテル・ツーリズム・マネジメント・プログラムの最終学位を文学士（BA）から理学士（BS: Bachelor of Science）へ転換し、応用科学としてのツーリズムの学問性を明確に強調するようになった。

上述したように、SHTM はイノベーションを念頭に、産業ニーズに合うカリキュラムの革新を図っている。それは 25 人の業界プロフェッショナルを含めたカリキュラム編成委員会の活躍があるからこそ可能である。

（5）カリキュラムの内容

現在²、SHTM が展開しているプログラムは学位レベルによって大きく 3 つのグループに分けられる。すなわち、準学士資格（HD）プログラム、学士学位プログラム、上級学位プログラムの三つである。

以下では、高等ツーリズム教育機関が最も力を入れている学部レベルでのカリキュラム編成を詳しく見てみよう。

学士学位プログラムは、ホテルまたはツーリズム・マネジメントコース（3 年制、政府

²資料収集当時の 2006 年のことを指す

補助金利用)とコンベンションを中心にしたホテルまたはツーリズム・マネジメントコース(1年半,自己資金運営)に分けられている。前者は実践的かつ専門的な教育に焦点を合わせ、上級管理者の育成を目的にしたものである。カリキュラムの必修科目には、ホテルとツーリズム産業のマーケティング、人的資源管理、ファイナンス・マネジメントと研究方法などの4科目がある。専門科目には、ツーリズム・マネジメント科目群(ツーリズム理論と概念、ツーリズム・プランニングと発展、中国のホテル・ツーリズム・ビジネス研究、ツーリズム比較研究)、国際ホテル・マネジメント科目群(戦略的マネジメント、クオリティ・サービス・マネジメント、中国のホテル・ツーリズム・ビジネス研究、マルティユニティホテル・マネジメント)、コンベンションとイベント・マネジメント科目群(クオリティ・サービス・マネジメント、会議と展示会マネジメント、コンベンション・ツーリズム、コンベンションとイベント・マネジメントの特別課題)がある。選択科目群には、専攻分野以外の専門科目に加えて、情報マネジメント、文化的ツーリズム、数量的方法論、ホテルの国際管理と意思決定などの17科目がある。そして、後者はHD卒業生の学力向上、またはホテル/ツーリズムなどの関連産業における業務遂行能力を高めることを目的に、ツーリズム経済や規制などの一般科目と、HRマネジメントや戦略/財務マネジメントなどのオペレーション知識を中心にカリキュラムを展開している。

これらのカリキュラムを見てみると、研究対象はホテル、ツーリズム、コンベンション・イベント・会議(MICE)などの幅広い領域にまたがり、教育内容はマーケティング、ファイナンス、マネジメント、ビジネス環境、オペレーションなどのビジネスとしてのツーリズムに焦点を当てていることが分かる。

(6) 中国本土でのプログラム展開

香港キャンパスでは、中国本土の学生を対象としたツーリズム関連プログラムを展開しているのみならず、SHTMは中国本土の大学と提携して、ツーリズム関連プログラムを展開している。例えば、西安交通大学では、ホテルとケータリング・マネジメント(BA(Hons))プログラム、浙江大学、北京第二外国語大学ではホテルとツーリズム・マネジメント(MSc)を展開している。また、広州、大連などの大学ともプログラム提携を行っている。これらのプログラムは香港キャンパスのプログラム—仕事経験のない学生に仕事体験をさせながら、専門知識・技能を伝授する—とは異なって、仕事経験のある程度積んだ人または当該分野の就業者を対象としている。

(7) 産学連携

SHTM は、産業ニーズの把握、学生の実務経験の蓄積、産業人材のトレーニングなどの目的で、グローバル・ツーリズム企業とパートナー関係を築き、産学連携教育に取り込んでいる。具体的には次のようになっている。

① 実地体験プログラム

SHTM のツーリズム教育の一つの特徴として、ツーリズム関連専門教育を重視すると同時に、“仕事と統合された教育” (WIE : Work-integrated Education) を強調していることがある。HD プログラム (3 年制) に対しては、1 年目の一般専門教育を経て、第 2 学年の 1 年間を通じたツーリズム関連企業での仕事体験が要求されている。また、学部レベルのプログラムに対しては、20 週間 (第 1 学年末および第 2 学年末) または 1 年間 (3 年間講義終了後の 4 年目・通年) の実地体験が要求されている。その目的は、学生の一般能力向上およびワークベース学習による理論知識の実践応用を実現することである。そして、実地体験または仕事体験を行うための協力機関は、香港本土のみならず海外にも及んでおり、宿泊、旅行、運送、フード・料飲、レジャーなどのさまざまなツーリズム関連企業・グループにも広がっている。

上述したように、ツーリズム関連企業との緊密な連携を保つだけでなく、教室で学習した知識およびスキルを常に実践できるように、学内でトレーニング場として The Millennium Training Restaurant が開設された。そして、2008 年度からの利用開始が見込まれる研修センターとしての役割もかねたホテルの建設なども、SHTM の WIE ツーリズム教育の一環として見ることができる。

② “一日教授” プログラム (Professor For a Day) と Winter School

ツーリズム関連企業の実態をより理解するため、SHTM はツーリズム関連産業のプロフェッショナルを招き、ある特定のテーマについて講演する “Professor For a Day” プログラムを展開している。また、ホテルの上級マネージャーを対象に、彼らのスキルと戦略的成長の向上を目的としたエリート経営幹部トレーニングプログラム—Winter School—を香港ホテル協会と共同で主催している。これらのプログラムがツーリズム関連企業のプロフェッショナルとアカデミーの間で行われることによって、産学間の交流ができるようになる。プロフェッショナルのマネージャーにとっては、理論的知識またはスキルの向上を達成することができ、アカデミーにとってはツーリズム産業の動向をよりよく理解・把握することができる。

④官学連携プログラム

ツーリズム関連産業との連携を重視するのみならず、地域のツーリズム発展のために行政・コミュニティとの連携も重視されている。表 3 は、近年の SHTM の主な官学連携のプログラムを列挙したものである。表 3 に示したように、立地地域の香港観光局との連携はツーリズムと関連した多くの領域で行われている。そして、中国本土の多くの行政やコミュニティのためにも調査・助言を行っている。それは、中国本土が香港のツーリズム・ツーリズム教育にとってより大きく、より重要な地域市場となっており、SHTM が中国本土のツーリズム研究を積極的にプログラムの中に導入しているからである。

表 3 近年の主な官学連携プログラム

	コンサルタント活動および研究
中国本土	雲南省観光の持続可能性研究，黒龍江省観光の持続可能性研究 上海新国際博覧センターの持続可能性研究 安徽黄山地方観光局（HMTB）の観光産業標準化促進協定
香港	香港観光局のツーリズム教育とリソース研究 香港観光局の香港人観光客調査レビュー 香港観光事務局のサービスクオリティ研究，クルーズ施設の経済的効果分析，観光情報インフラ研究など
海外	ベトナムの Phu Quoc 島の観光研究

出所：SHTM の公式サイトより作成

4.3.SHTM グローバル教育の特徴と今後の課題

SHTM のツーリズム教育の特徴をまとめてみると次のようになる。

①ツーリズム産業のための教育とイノベーションの重視

ツーリズムをビジネス現象として認識した場合には、ツーリズム教育のカリキュラムはビジネス知識によって解釈され、実務教育に焦点を当てる傾向がある。SHTM のカリキュラムを見てみると、マーケティング、マネジメント、ファイナンス、オペレーション、ビジネス環境などのビジネス知識に焦点が当てられており、仕事体験などの実務教育が非常に強調されている。つまり、SHTM はツーリズムをなによりもビジネス現象として捉え、そのカリキュラムを編成していることが分かる。

このような教育的観点、ツーリズム産業の代弁者であるプロフェッショナルのカリキュラム・プランニング・プロセスへの参画から始まって、マネージャーとしてのキャリアを育成するためアプリケーションまたはプロフェッショナル志向のプログラム展開にいたるまでに現れている。そういう意味で、SHTMのツーリズム教育はツーリズム産業のための高等教育であると言える。

そして、上述したように、ツーリズム産業の発展・成長にともなう新しい研究を促進する新たなプログラムやコースを開設し、業界の助言を受け入れ、カリキュラムのイノベーションも積極的に図っている。

②国際交流とネットワークの構築

国際交流はグローバル教育のひとつの重要な構成部分である。そして、SHTMの教育システムを見てみると、学生と教員の国際交流、グローバル・ツーリズム関連企業と海外大学とのパートナーシップ、国際会議やコンサルティングなどによるツーリズム研究国際ネットワークの形成、留学生交換制度や外国語教育など多文化コミュニケーション能力の育成などがこれにあたる。SHTMはドメスティックな範囲を超えて、文化の相互依存性に基づきながら教育を展開している。

③アジアのリーダーシップ

アジア地域におけるツーリズムの急速な成長は高等ツーリズム教育に新たな波を引き起こした。ヨーロッパ（実務志向のツーリズム教育）とアメリカ（マネジメントスキル志向のツーリズム教育）のツーリズム教育と異なって、アジアのツーリズム教育はイノベーションやサービスクオリティを重視している。アジアのツーリズム教育プログラムは世界のツーリズム教育を新たな方向に導く（Ado Lo,2005）。そして、このような教育システムの先頭に立とうとするSHTMはツーリズム教育プログラムをアジア、特に中国本土へと展開している。SHTMのツーリズム教育は、香港ツーリズム産業のための人材育成というより、アジア地域のツーリズム産業のために人材を育成するプロセスである。

④「グローバル・ツーリズム教育」としての今後の課題

「グローバル・ツーリズム教育」の視角から見ると、SHTMの現在の教育システムには多くの問題もある。

たとえば、海外でもプログラムが展開されているが、SHTMのプログラムは従来から現地にある既存の教育システムに適合しているかどうか、現地の文化、伝統、産業特性を十分に反映できているかどうかなどが問題となる。SHTMのツーリズム教育プログラムは、

香港のツーリズム産業の成長とともに築かれてきており、香港ツーリズム市場の特性を反映している。すなわち、国際金融、貿易センターである香港のツーリズム産業はホテル、料飲、コンベンション、ミーティング、イベントなど関連領域のマネージャーレベルの人材育成に対して他分野より積極的な姿勢を示している。その結果、SHTMのツーリズム教育プログラムの中でこれらの領域にかかわるカリキュラムが多く含まれることになる。しかし、自然、歴史、文化などを主な観光資源と見なしている地域、特に中国本土では、SHTMのカリキュラムは現地ツーリズム関連企業の人材ニーズに合うかどうかの問題となるだろう。すなわち、SHTMの教育システムは、香港の特性に適応しているといえるが、プログラムを展開している地域の特性への適応という点では課題を残している。

5. むすび

グローバリゼーションの進展および産業構造の転換（労働集約型産業から知識集約型産業へ）に伴って、ホテル産業をふくむツーリズム産業はグローバル産業になりつつあり、同時に人材育成がホテル産業の競争優位獲得の鍵要因となってきている。したがって、ツーリズム教育、特に高等ツーリズム教育は、産業の国際競争力の獲得や持続的な発展のために、それをグローバルな視野、科学的かつ専門的な知識・スキル、ゼネラルマネジメント能力を有するプロフェッショナルな人材育成のため必要不可欠な手段となり、それは必然的に「グローバル教育」となる。しかし、グローバリゼーションはすべてを画一化するものではなく、それにともない文化などの多様性もより強調されるようになっている。したがって、このようなグローバル産業のための「グローバル教育」も、単にカリキュラムをグローバル・スタンダード化したものではなく、既存の教育制度や地域の特性または産業ニーズや個人の知的発展の変化に適応した動的なシステムでなければならない。

このような視点から、本稿では香港理工大学 SHTM のツーリズム教育システムを考察し分析した。SHTM のツーリズム教育は、グローバリゼーションの進展の中でホテル産業またはツーリズム産業の競争環境の変化や個人の知的発展の需要に適応しながら、地域の特性を生かした「グローバル教育」である。SHTM は、研究面でのグローバルなネットワークを構築し、同時に香港の国際観光・貿易都市・金融センターとしての特性に適応しているだけでなく、中国本土との更に緊密となってきているリージョナルな関係をも重視している。また産業や行政機関との相互的な関係も重視され、これらは「グローバル・ツーリズム教育」をより具体化していくうえでのモデルとなるだろう。

ホテル産業の国際競争優位をもたらすためには、今まで多く議論されてきた企業戦略・管理の面において優位性を形成するだけでなく、「グローバル・ツーリズム教育」もこのような競争優位の獲得に重要である。本稿は、アジアの高等ツーリズム教育機関（香港理工大学 SHTM）のわずか一事例の分析を通じてではあったが、「グローバル・ツーリズム教育」の実態をある程度明らかにすることができた。本稿が、何よりもツーリズムの教育方法に関する試行錯誤を繰り返す、その他のアジアの高等教育機関に貢献できることを願いたい。

謝辞

本稿は「多国籍企業学会西部部会 2007 年 11 月例会」において行った研究報告に基づくものである。日ごろから、ご指導いただいている安室憲一先生（兵庫県立大学）をはじめとして、梅野巨利先生（兵庫県立大学）その他の、報告内容に関して貴重なコメント・ご批判を下された先生方、先輩方に感謝の意を表したい。

参考文献

- Ado, Lo. (2005) "The past ,present ,and future of hospitality and tourism higher education in Hong Kong" in Cathy H.C. Hsu,(eds.) *Global tourism higher education : past ,present ,and future*. THHP: pp.137-166.
- Airey, D., and Johnson, S., (1998) *The profile of tourism studies degree courses in the UK 1997/98*. London: The National Liasion Group for Higher Education in Tourism.
- Cooper, C. (1997) "A framework for curriculum planning in tourism and hospitality" in E. Laws, (eds.) *The ATTT tourism education handbook*. London: Tourism Society. pp. 24-27.
- David, M. (2003) "Business Simulations: a balanced approach to tourism education" *International journal of contemporary hospitality management* 15(6):336-339.
- Go, F. (1998) "Globalization and emerging tourism education issues" in William, F. Theobald, (eds.) *Global tourism .B/H.*: pp.447-475.
- Jafari, J., and Ritchie, J. R. B. (1981) "Towards a framework for tourism education" *Annals of Tourism Research* 8(1):14-34.

- Koh, K. (1995) "Designing the four-year tourism management curriculum: A marketing approach" *Journal of travel research*, 24(1), 68-72.
- Lewis, A. and Tribe, J. (2002) "Critical Issues in the Globalization of Tourism Education" *Tourism Recreation Research* 27 (1): 13-20.
- Middleton, V., and Ladkin, A. (1996) *The profile of tourism studies degree courses in the UK 1995/96*. London: The National Liaison Group for Higher Education in Tourism.
- Moore, R. (2002) 「ホスピタリティ・マネジメントと情報技術」 中村清, 山口祐司編著『ホスピタリティ・マネジメント: 理論とケーススタディ』生産性出版 pp.169-178。
- Smith, G., and Cooper, C. (2000) "Competitive approaches to tourism and hospitality curriculum design" *Journal of travel Research* 39:90-95.
- Tribe, J. (2001) "Research paradigms and the tourism curriculum" *Journal of Travel Research* (39):442-448.
- Tribe, J. (2005) "Overview of Research" in Airey, D., and Tribe, J. *An International Handbook of Tourism Education*. Elsevier. pp.25-41.
- 岡本伸之 (1996) 「観光学の体系に関する一考察: 四年制大学観光学科のカリキュラム構成を手がかりとして」『日本観光学会誌』 28 号 pp.1-12。
- (2001) 「コンテンツ・アナリシスによる四年制大学観光学科のカリキュラム分析」『立教大学観光学科学部紀要』 第 3 号 pp.42-54。
- 香川真 (2007) 『観光学大辞典』 日本国際観光学会。
- 国土交通省総合政策局観光企画課 (2007) 「高等教育機関における観光教育システムのあり方に関する調査」。
- 宋戸学 (2002) 「観光研究の“副層性”と観光教育のパラダイムに関する考察」『立教観光学研究紀要』 第 4 号 pp.71-74。
- 安室憲一 (1986) 『改訂増補 国際経営行動論』 森山書店。
- 安室憲一 (監訳) (2002) 『ホテル産業のグローバル戦略』 白桃書房
- 安村克己 (1997) 「大学ツーリズム教育の本質とその社会的背景」『日本観光学会誌』 第 30 号 pp.1-8。
- 呉必虎 (1998) 「中国旅游教育体系的結構研究」『J』『桂林旅游高等专科学校学报』 1998,9(3) pp.65-71。
- 張雪松 (2006) 「四年制大学における観光教育の国際比較研究: 観光関連プログラムのカリキュラムを中心に」『星陵台論集』 第 39 卷第 3 号 pp. 41-62。
- 香港理工大学 SHTM 公式サイト: <http://www.polyu.edu.hk>